

ナース coco さぼ通信

Vol. 1 (3回/年)
公益社団滋賀県看護協会

皆様の「こころ」に、少しでもお日様や  お水  をお届けして、「こころ」をピチピチにしてもらえたら・・・という願いのもと、看護協会の「看護職のこころのサポート」相談事業より、2人のリエゾンナースが **coco さぼ通信** をお送りしています。


新しい年が明けた、新年度が始まった、5月連休が終わった、そろそろ夏休み・・・遊び心動いていますか？水着コーナーが紳士服売り場と同じくらい心動かされないものになって早幾年月ですが、海の日があるなら山の日も祝日ができるそうですね。三上山は岩場がアドベンチャーだし、生駒山は山頂の遊園地のビールが最高です。夏を楽しむ一日、作りたいですね。

「スタッフのことで相談がある」と丸太師長さんが訪ねてきました。

新人ナースの指導をしている4年目ナースの角子さん。仕事はできるけど言い方が厳しいので、「新人ナース達が怖がっているから、もう少し気をつけて」って注意したんです。そしたら、「患者さんの命を守るために必要なことができていないのに、きついといわれても。パワハラってことですか？それじゃあ、何も言わないようにします」とムキになってしまっ

うーん、角子さんは丸太師長から否定されたように感じ、頑なになってしまったようです。でも、角子さんがこのままだと新人ナースの緊張が続き、職場に來れなくなってしまう可能性もあります。

『角子さんは、患者さんには穏やかに接しているんですけどね。』とため息。「丸太師長さんとしては、その話を角子さんがどのくらい受け入れてくれると？』『あまり期待できないなどは思っていました。でも言わないといけな

私たちは案外、良い結果をもたらさないと、薄々わかっているのに同じやり方を繰り返しがちです。

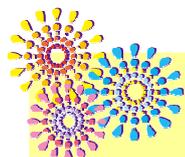
実のところ、「私は間違えていないから」という角子さんと、『言わないといけなから』という丸太師長、なんとなく似ていますね。どちらも【正しいこと】と考えて行動しています。そして、【相手の行動の変化】を目的にしています。あとは、【自分の行動の結果】は・・・？丸太師長さんは『効果的な行動じゃなかったな』と振り返ります。

自分の行動を変えるのは難儀です。それで、つい「自分は正しい」から「相手が変わるべき」と自分の行動を変えない理由づけをします。あるいは、「他の方法が見つからない」と行動を変えられない場合もあります。

でも、丸太師長さんは「相談する」という勇氣ある行動に出ました。

丸太師長さんと、「角子さんに言い方を変えてもらうための効果的なアプローチ」を一緒に考えました。「新人ナースに穏やかに関わっている場面を見つけて“いいね”って言うのも、違うやり方としてどうですか？』『角子さんだって怖がりたい訳じゃないだろうし。どんな言い方が効果的か考えてもらうような面談をしてみます』と丸太師長さん。「次は、“このやり方じゃあ効果ないな”と予測できたら、行動する前に作戦タイム取ってね!!」と送り出しました。

「相談する」には勇氣が必要です。堅い鎧を脱ぎ捨てて**ありのままの自分**を曝す、そんな勇氣です。角子さんも丸太師長も私も「どうしたらうまくいかなあ」と日々修行の身で生きる未熟者、一緒に知恵を出し支えあえたらと思っています。師長さんもプリセプターさんも新人さんも、気軽に話に來て下さいね。待っています↓↓



看護職員こころの相談 お問い合わせ・予約
☎ : 077-564-9494 Email : shiga@nurse-center.net
来所相談・電話相談(予約制)
相談日 : 木曜 9:30 ~ 12:30 13:00 ~ 16:00 9:30 ~ 16:00
詳細はホームページをご覧ください。 **秘密厳守します**

